

平成 29 年度秋季特別展・没後 20 年

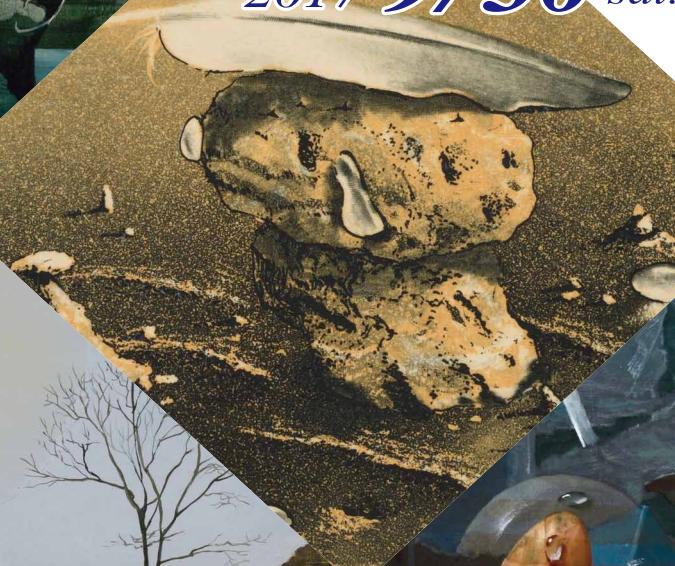
HIROSHI MATDA

麻田 浩

～小さな絵の世界～

2017 9/30 sat. - 11/26 sun.

※10月17日より追加展示を行います



開館時間 = 午前 9 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 = 毎週月曜日 (10月9日 [祝] は開館)

入館料 = 大人 300 円 / 学生 (高校生以上) 200 円 / 小人 100 円

※幼児および南丹市内在住・在校の小・中学生は無料

※20名以上の団体は 2 割引

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳を持つ方と

その介護者は半額

「ギャラリートーク」(展示会関連事業)

10月 14 日 14:00 ~ / ゲスト : 麻田弦氏 (麻田浩氏長男)

同時期開催 「没後 20 年 麻田浩展…静謐なる楽園の廃墟」

会期 : 2017 年 9 月 28 日 (木) ~ 11 月 19 日 (日)

会場 : 練馬区立美術館 (東京都練馬区貫井 1-36-16 / Tel 03-3577-1821)

南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町 63 番地 / TEL: 0771(68) 0081 FAX: 0771(63) 2983

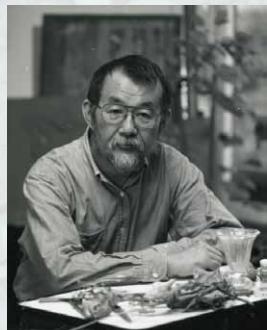
平成 29 年度秋季特別展・没後 20 年

麻田 浩

～小さな絵の世界～

麻田浩は、南丹市八木町出身の日本画家・麻田辨自の二男（長男は日本画家の麻田鷹司）として、1931 年に京都市で生まれました。1954 年、同志社大学在学中に新制作協会展で初入選、当時はアンフォルメルの影響を受け、抽象絵画やシュルレアリスムなどの作品を中心に制作を行っていました。その後、1971 年の渡仏を機に、宗教的な精神性を込めた作品を制作するようになると、国内外から高い評価を得ました。1982 年には帰国、京都にアトリエを構え、京都市立芸術大学の教授を務め創作活動を続けましたが、65 歳の時に自ら命を絶ちました。2017 年は、麻田の没後 20 年という節目の年にあたります。

画家は所属する団体展などの大きな展覧会に一般的に大作とよばれる大きな作品を出品することが多く、麻田も油絵の大作を自身の大きな柱に据えて創作活動を行っていました。しかし、大作ばかりを描いたわけではなく、人々が手に入れやすい小さな画も手がけました。本展では、麻田の中・小の油彩画から銅版画、ドローイングなどを紹介します。また、創作活動を記したノートのほか、画材やモチーフなどの展示も行います。画家・麻田浩が作品に込めた想いや制作当時の心境などにも触れ、改めて麻田の魅力を感じていただければ幸いです。



【交通案内】◆自動車…京都縦貫自動車道「園部 IC」もしくは「八木西 IC」より約 5 分。
◆電車・バス…JR 園部駅西口より京阪京都交通バス「八木線」もしくは「園篠線」に乗車、「交流会館前」下車すぐまたは、市営ぐるりんバスに乗車、「図書館前」下車すぐ。
徒歩の場合は駅から約 30 分。

南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町 63 番地 / TEL: 0771(68) 0081 / FAX: 0771(68) 2983



①



③



⑥



⑧

【掲載図版】<表面（上段左から）>「水滴風景」1970 年／「休息」1980 年（当館蔵）／「空と野」1971 年頃／「石の上の漂流物の如く」1983 年／「赤い風景の中」1971 年／「沈黙」1979 年。<裏面>①「緑の地」1980 年／②「風景」1970 年頃／③「イマージュ・樹」1992 年／④「女」1971 年／⑤「三つの元素」1980 年／⑥「パンジー」制作年不明／⑦「北山杉」1986 年（京都府蔵）／⑧「横井時雄肖像画」1993 年（同志社大学蔵）※所蔵者名の記載がないものはすべて個人蔵